



2013年 12月期
決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社

代表取締役社長

吉野 公一郎

会社概要

■ 会社名： カルナバイオサイエンス株式会社
 (英文社名： Carna Biosciences, Inc.)

■ 代表者名： 代表取締役社長
 吉野 公一郎

■ 設立： 2003年 4月 10日
 (日本オルガノンからスピノフ)

■ 上場日： 2008年 3月 25日 (JASDAQ NEO)

■ 上場市場： 東京証券取引所 JASDAQグロース

■ 資本金： 26億0,272万円

■ 発行済株式数： 82,650株 (平成26年1月1日の株式分割により8,265,000株、単元100株)

■ 株主数： 7,257名

■ 役員及び従業員数： 役職員61名

■ 所在地： 神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA 3F (ポートアイランド・神戸医療産業都市内)
 (最寄り駅：ポートライナー 医療センター駅 徒歩1分)

■ 監査法人： 有限責任監査法人 トーマツ

■ 事業内容： キナーゼをターゲットとした創薬事業および創薬支援事業



神戸バイオメディカル創造センター(BMA)

当社の目標

米国型のバイオベンチャー
(創薬ベンチャー = 新薬創製研究)
となることを目指す



革新的な医薬を生み出す

ガン治療、リウマチ治療を重点領域とした
経口(低分子)の分子標的薬



当社のビジネスモデル

創薬支援 事業



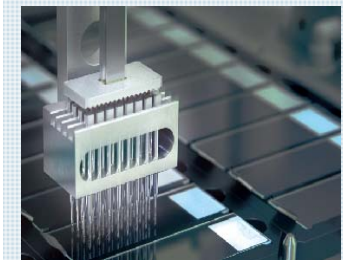
キナーゼ蛋白質
製造・販売



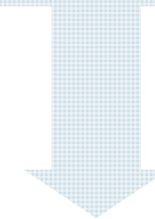
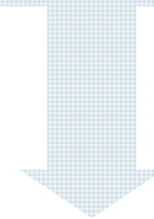
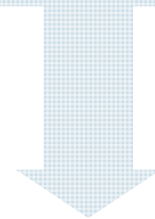
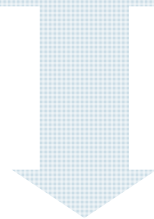
アッセイキット
開発・販売



プロファイリング・
スクリーニング
サービス提供



セルベース
アッセイ等



創薬事業

キナーゼ阻害薬の創薬
ガン、免疫炎症疾患(リウマチ等)治療薬

自社で画期的な新薬を開発する

2013年のトピックス

- 創薬支援事業の売上が大幅伸長(対前年度比+51%)
- 創薬支援事業の営業利益が大幅伸長(対前年度比+432%)
- プロファイリングサービスがキナーゼ販売を抜き最大の事業に成長

- TNIK阻害薬研究がステージアップし前臨床試験段階に至った
- BTK阻害薬研究がステージアップし前臨床試験段階に至った

- ラクオリア創薬株式会社とキナーゼを標的とした創薬研究を開始
- 簡易株式交換により株式会社ProbeXを完全子会社化
- 京都大学との共同研究「キノームの活性プロファイル法と制御技術の開発」がJST 研究成果展開事業に採択された
- 北里大学との共同研究「マラリアキナーゼを標的とした新規マラリア治療薬の研究開発」がJST A-STEPに採択された

- 行使価額修正条項付第14回新株予約権の発行により資金を調達
2013年12月末までに596百万円を調達済み

2013年度 連結経営成績の概況

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2013年12月期実績 (a)	771	△300	△276	△282
2012年12月期実績 (b)	510	△457	△442	△449
対前期比 (c)=(a)-(b)	+260	+157	+166	+167
対前期増減率 (c)/(b)	+51%	—	—	—
2013年 計画値 (d)	760	△306	△286	△290
対通期計画比 (a)-(d)	+11	+5	+9	+8
対通期計画比 (a)/(d)	101%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2013年12月20日発表の修正後の通期計画に基づいております。

(注3) 対通期計画比における「営業利益」「経常利益」「当期純利益」の値は、それぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

2013年度 事業別業績の概要

(単位: 百万円)

	売上高			営業利益		
	創薬支援 事業	創薬事業	計	創薬支援 事業	創薬事業	計
2013年12月期実績 (a)	771	—	771	249	△549	△300
2012年12月期実績 (b)	510	—	510	46	△504	△457
対前期比 (c)=(a)-(b)	+260	—	+260	+202	△45	+157
対前期増減率 (c)/(b)	+51%	—	+51%	432%	—	—
2013年12月期(修正)通期計画 (d)	760	—	760	244	△551	△306
対通期計画比 (a)-(d)	+11	—	+11	+4	+1	+5
通期計画に対する達成率 (a)/(d)	101%	—	101%	101%	—	—
2013年12月期(当初)通期計画 (e)	755	400	1,155	187	△182	4
対通期計画比 (a)-(e)	+16	△400	△383	+61	△367	△305
通期計画に対する達成率 (a)/(e)	102%	—	66%	132%	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てして表示しております。

(注2) (修正)通期計画値は 2013年12月20日発表の通期計画に基づいており、(当初)通期計画は2013年2月8日発表の通期計画に基づいております。

(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」の値は損失を計上している場合数値を表示しておりません。

研究開発費および設備投資について

(単位:百万円)

		2013年 12月期	2012年 12月期
研究開発費	創薬支援事業	9	2
	創薬事業	414	374
	計	423	376
設備投資		7	38
期末人員(連結)		52人	52人

(内訳)

研究開発費:化合物の非臨床試験費用(化合物の最適化、高次評価及び前臨床費用並びに創薬基盤技術の強化

設備投資 :本社電話設備更新、研究開発用の研究機器

バランスシートの状況(連結)

(単位:百万円)

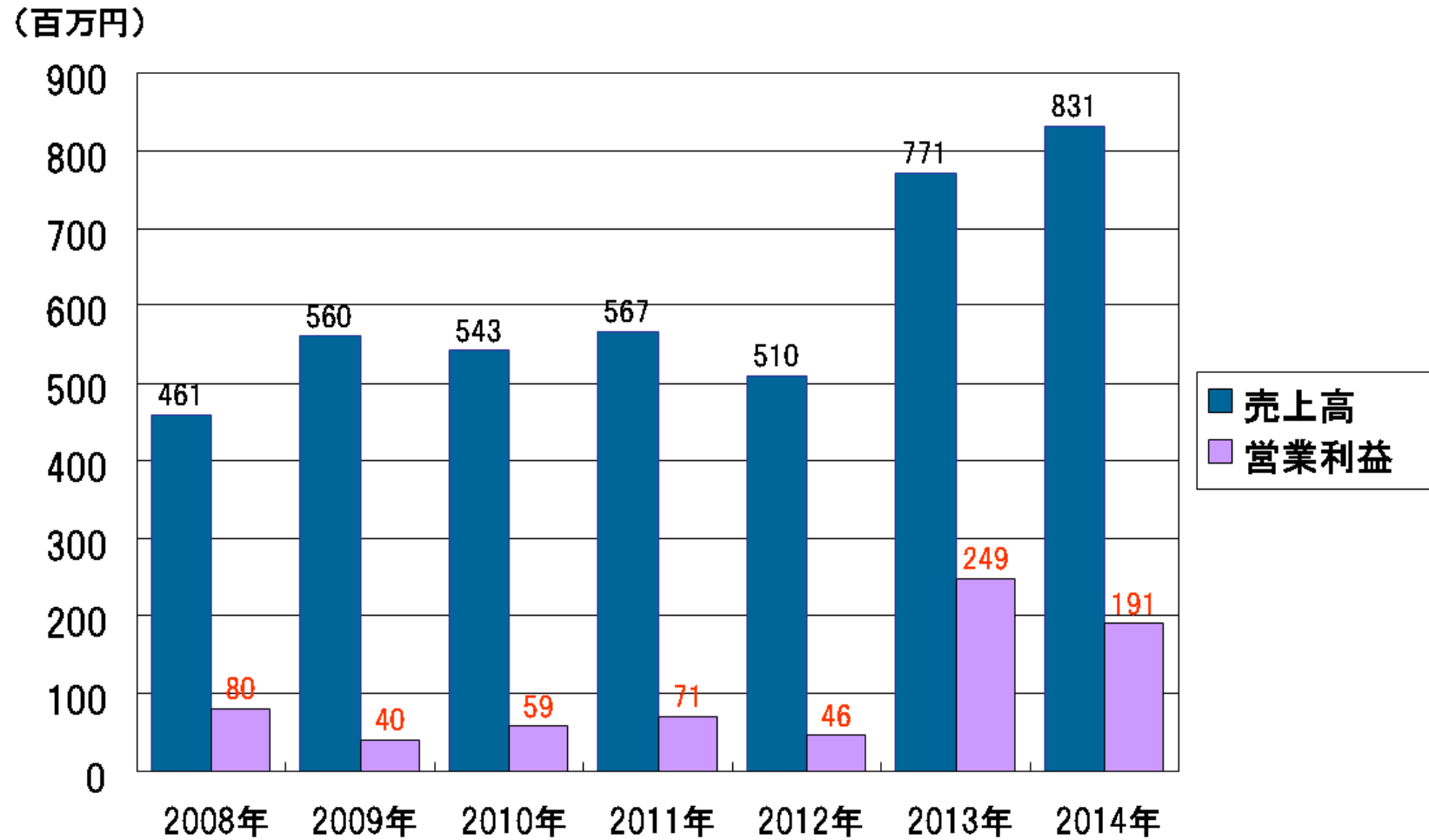
	2013年12月期	2012年12月期	増減額	増減理由
流動資産	1,361	913	447	
現金及び預金	1,067	654	412	第14回新株予約権の行使+596等
その他	293	258	35	売掛金+34等
固定資産	527	203	324	ProbeX(のれん+245、特許権+35) 投資有価証券(クリスタル・ゲノミクス社)増等
資産合計	1,888	1,116	772	
流動負債	129	109	20	未払金+15等
固定負債	161	126	34	繰延税金負債+25等
負債合計	291	236	55	
純資産合計	1,597	880	717	資本金+331、資本剰余金+604、利益剰余金△282等
負債・純資産合計	1,888	1,116	772	

自己資本比率	84.1%
一株当たり純資産	193.3円
PBR(株価純資産倍率)	3.86倍
(参考)当社株価	742円

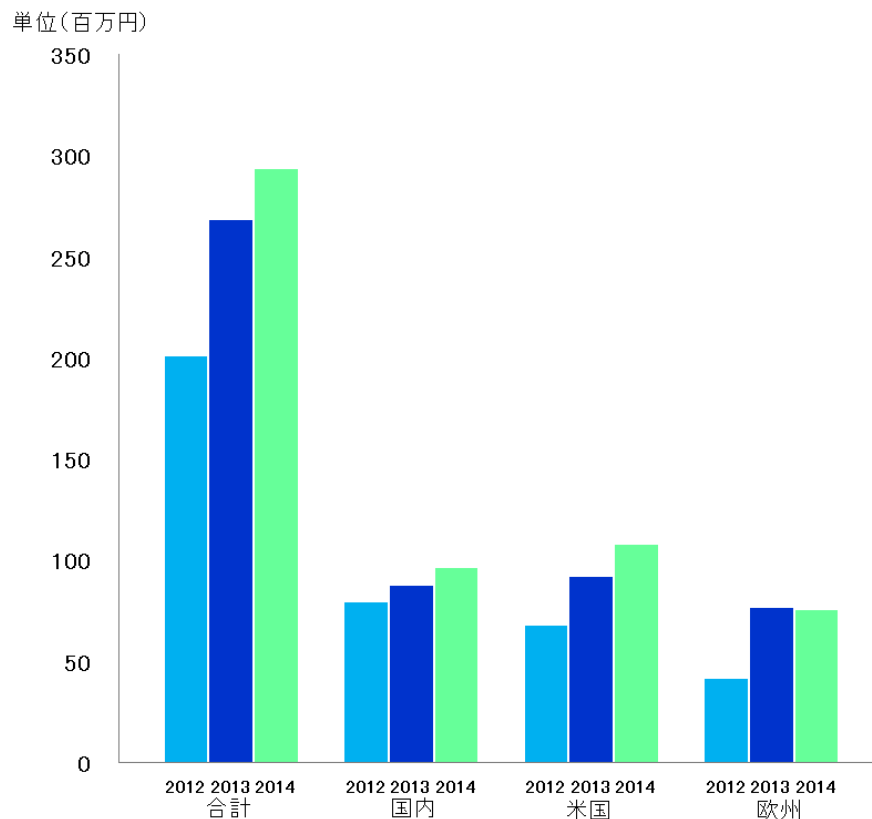
(注1)当社株価は東証JASDAQグロースにおける各四半期末日における終値に基づいております。

(注2)株価および1株当たり情報は、平成26年1月1日を効力発生日とする株式分割を反映した数値となっています。

創薬支援事業 売上高、利益計画(連結)



キナーゼ蛋白質



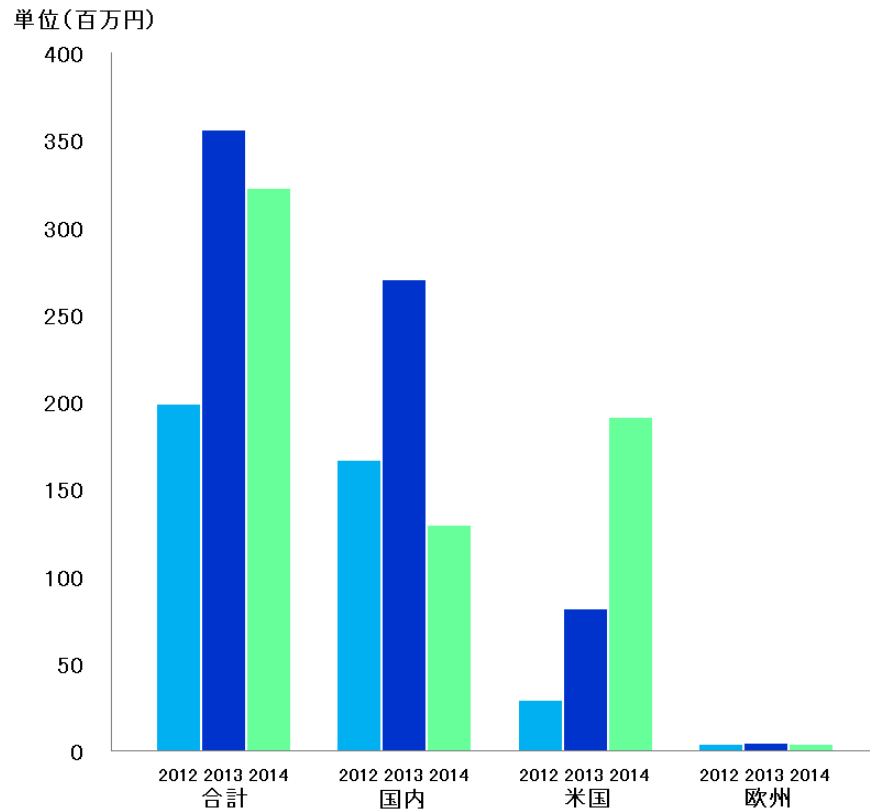
2013年実績

- カスタムタンパク製造依頼等の顧客の要望にきめ細かく対応した結果、売上が大幅伸張
- 日本、米国、欧州ともに売上が伸張
- 特に欧州は、特定大口顧客の開拓により売上大幅伸長

2014年目標

これまでの主要顧客であるがん領域研究者とのつながりを強化しつつ、炎症領域等の新たな顧客層の開拓を進める。オンリーワン商品の研究開発を進める。

プロファイリング



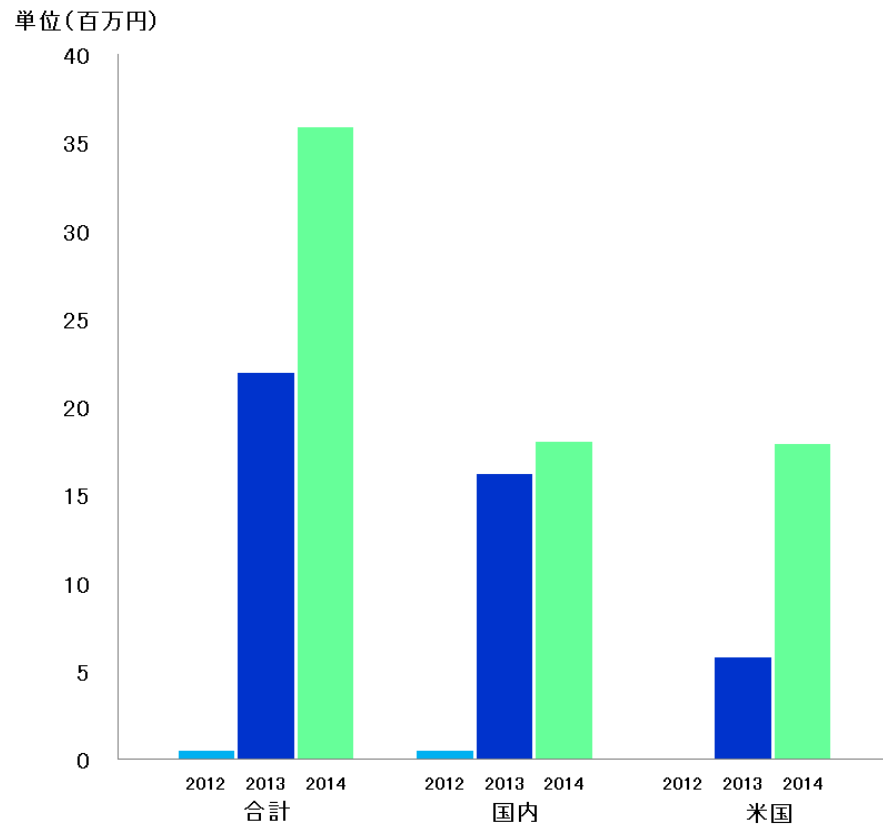
2013年実績

- 日本における大型受注の結果、売上が大幅伸張
- 米国においても固定顧客の開拓に成功し、売上が大幅伸張

2014年目標

プロファイリングキャパシティーを增強するとともに、米国での大型受注を目指す。

RPPAシグナル解析

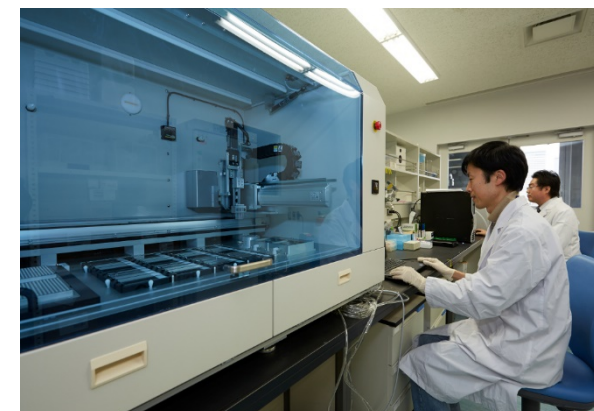


2013年実績

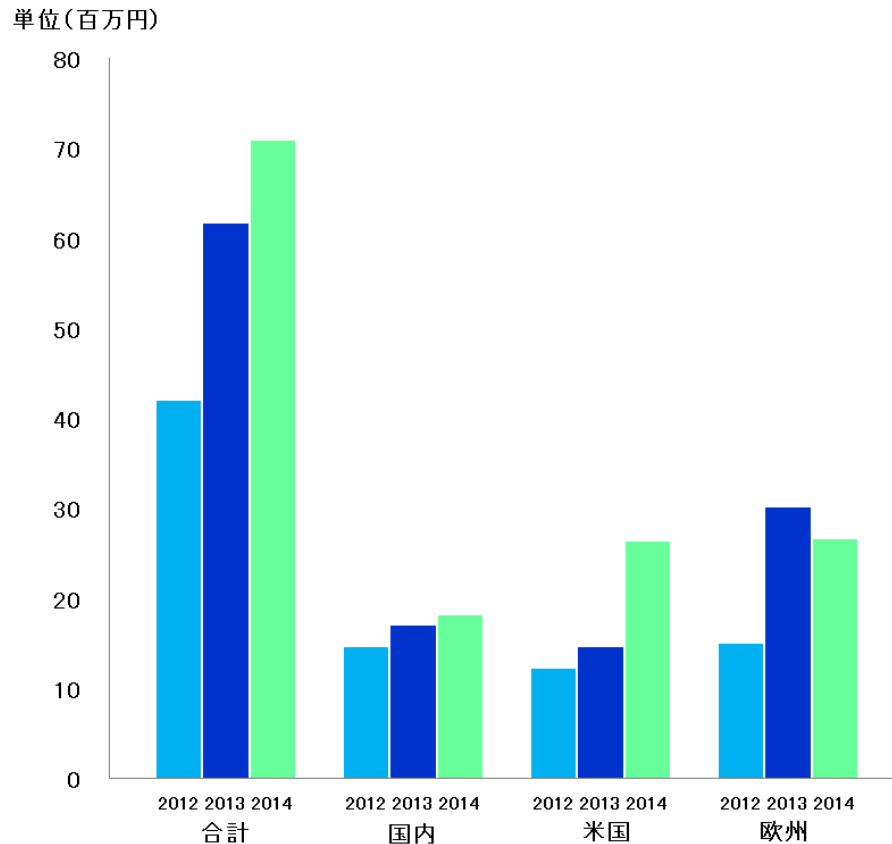
- 日本、米国より25件の解析を受注
- リピートオーダー
- 論文執筆につながる発見に寄与

2014年目標

米国での顧客開拓を進め、主力事業に育成する。



セルベースアッセイ(ACD)



2013年実績

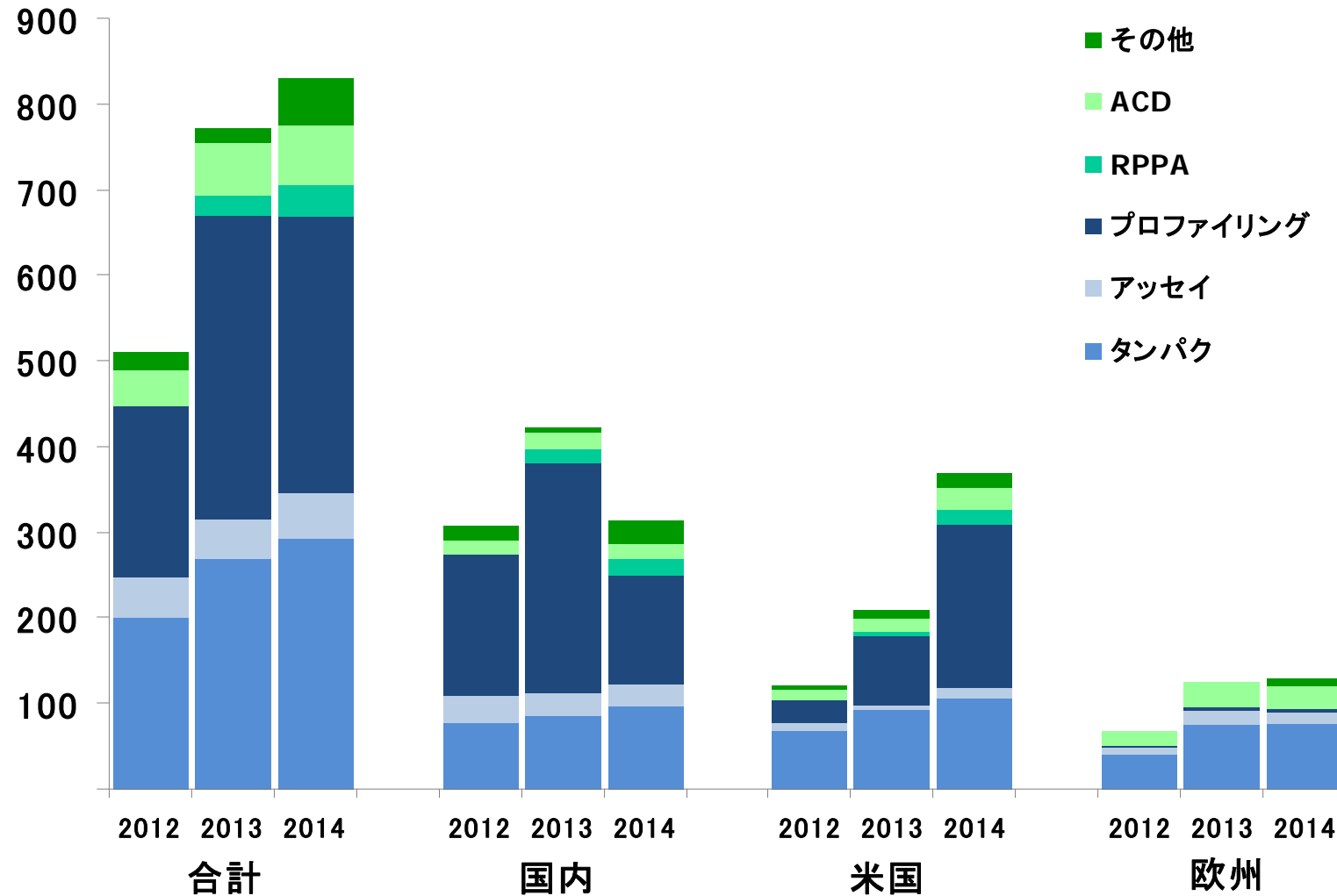
- サービスの認知度が向上し、日本、米国、欧州ともに売上が伸張
- 特に欧州は、大口顧客の獲得に成功し、売上大幅伸長

2014年目標

米国での顧客開拓を進め、さらに売上増加を目指す。

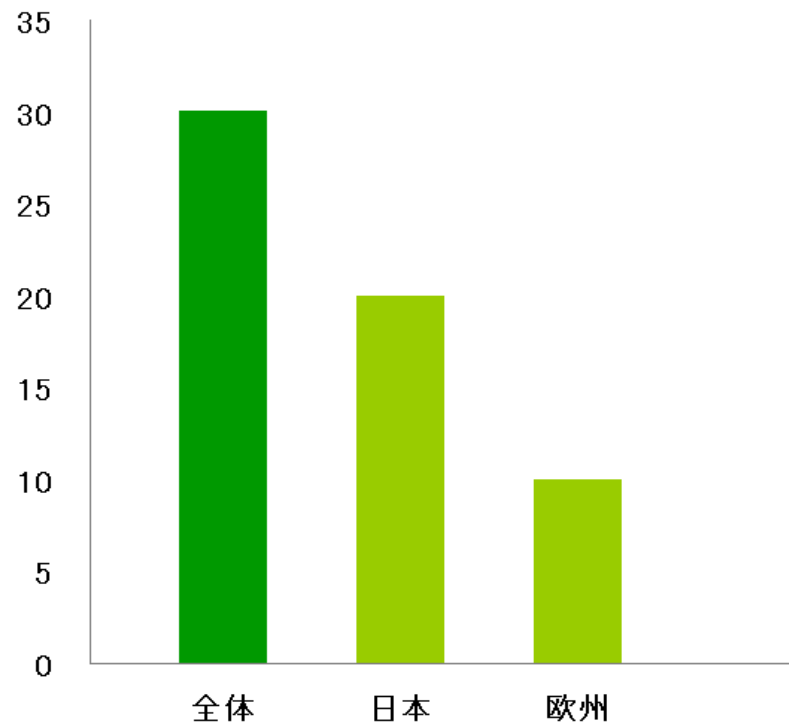
2014年度 売上計画

単位(百万円)



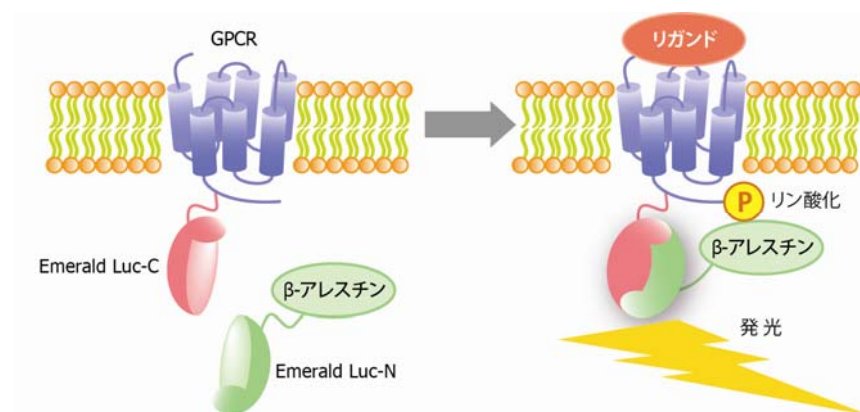
GPCR安定発現細胞株

単位(百万円)



2014年目標

GPCRシグナル解析用ステーブルセルラインの販売を開始し、日本・欧州での顧客獲得を目指す。欧州はNTRC社と共同マーケティングを予定。



2014年度 創薬研究の基本方針

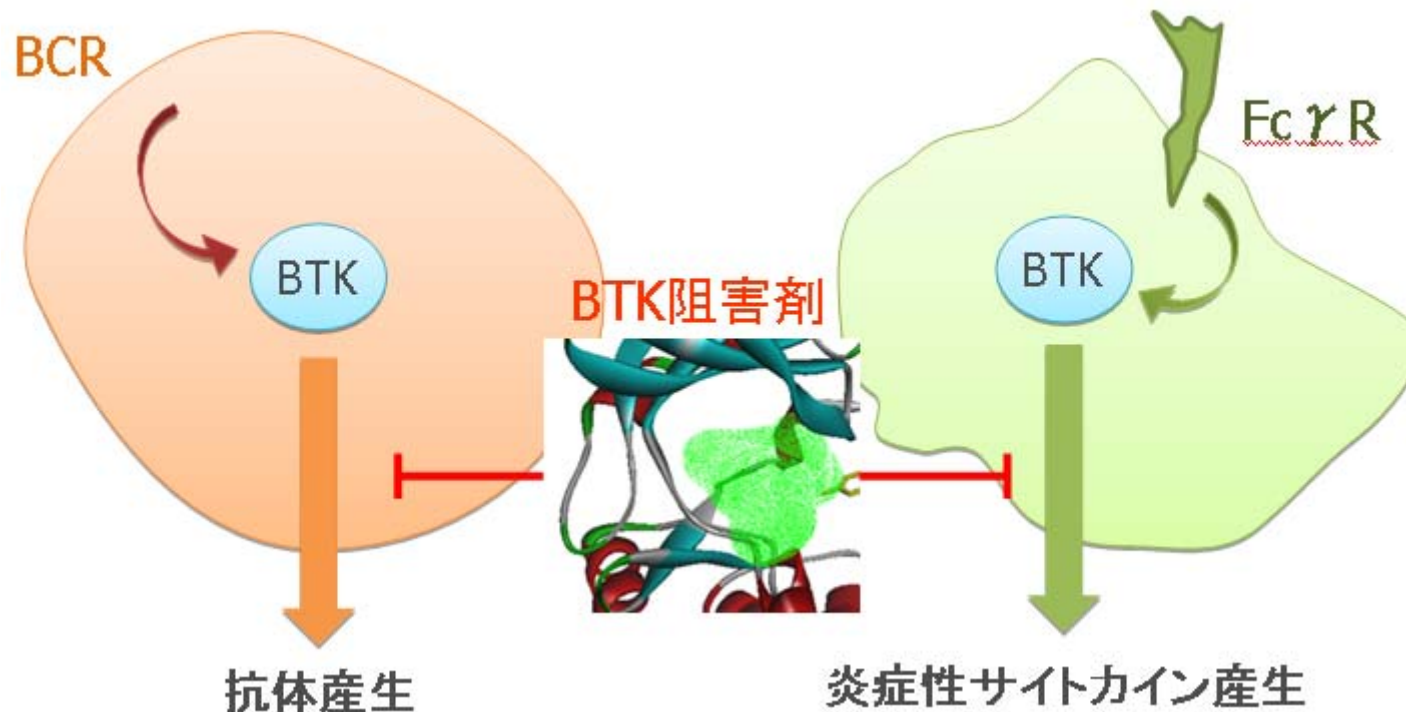
- BTK阻害薬とTNIK阻害薬の前臨床試験に注力する
- 両テーマとも2015年度の臨床試験入りを目指す

創薬パイプライン

First-in-class / Best-in-class 戦略

プログラム	研究ステージ	開発ステージ	次期 マイルストーン	
BTK阻害薬 (リウマチ)	IND-enabling study		IND filing Late 2015	自社
TNIK阻害薬 (がん)	IND-enabling study		IND filing Mid 2015	国立がん研究センターとの 共同研究
CDC7/ASK 阻害薬 (がん)	IND-enabling study		Not disclosed	SBIバイオテックとの 共同研究
DYRK1A阻害薬 (アルツハイマー)	Lead optimization		Not disclosed	キノファーマとの 共同研究

BTKシグナル経路

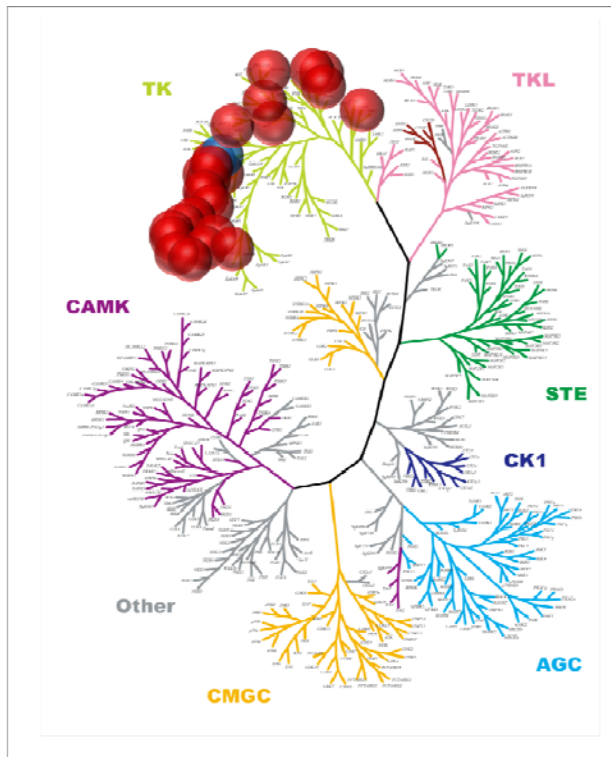


自己抗体の産生、TNF- α などの炎症性サイトカイン産生をブロックすることで、
関節リウマチや全身性エリテマトーデスといった
自己免疫疾患への効果が期待される

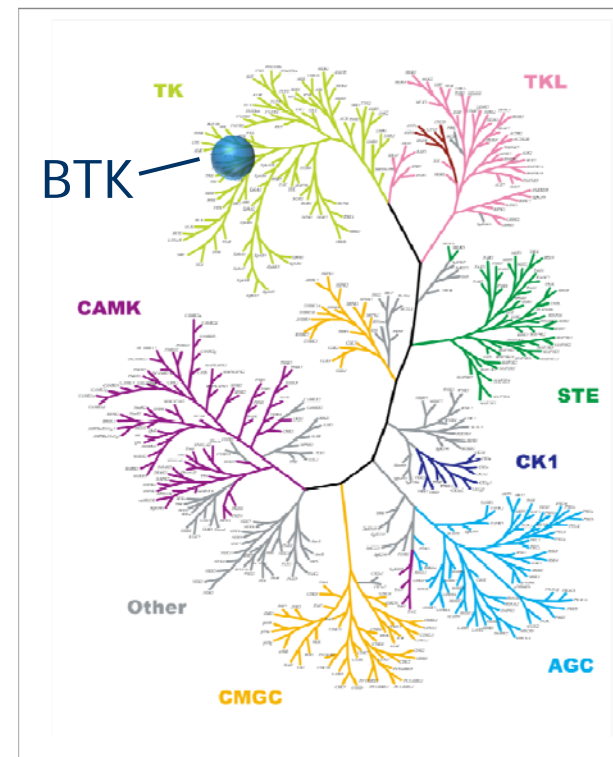
選択的BTK阻害薬

丸印 IC50 < 300 nM

IMBRUVICA (J&J/Pharmacyclics)



カルナヒット化合物



BTKのみを選択的に阻害するヒット化合物を同定し、最適化研究を開始

BTK阻害薬の病態モデルでの効果

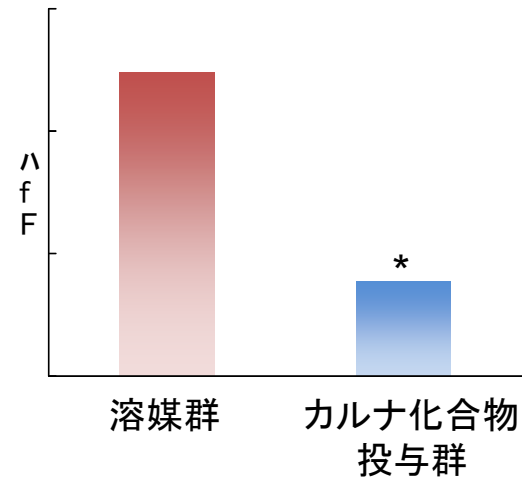
即時型アレルギーモデル



溶媒



カルナ化合物



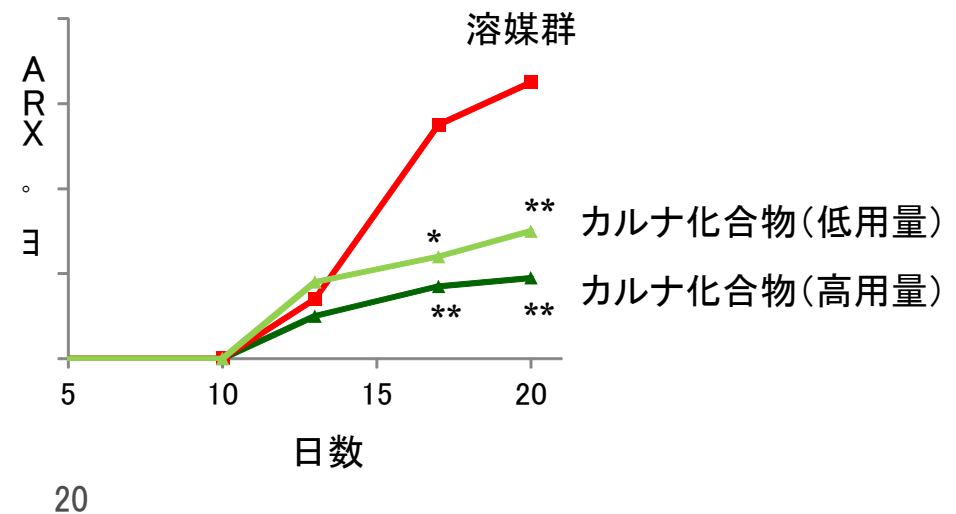
ラット関節炎モデル



溶媒



カルナ化合物



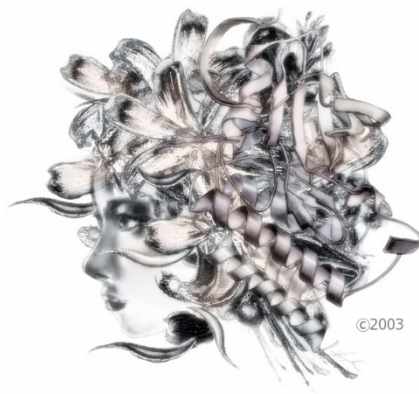
IMBRUVICA™ (Ibrutinib)

Pharmacyclics, Inc. / J&J

- 不可逆的**BTK阻害薬**
- マントル細胞リンパ腫治療薬
- 2018年に売り上げが1千億円を超えると予想されている



今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac(心臓)の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物学と言われ、生物学(Biology)と生命科学(Life Science)から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました。

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078)302-7075 / Fax (078)302-6665

URL: <http://www.carnabio.com>

E-mail: ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。